

# オーケストラ・フィルジツヒ 第16回演奏会

2021年2月11日(木・祝)

開場 13:00 開演 14:00

ふくしん夢の音楽堂

(福島市音楽堂) 大ホール

感染症対策にご協力をお願いいたします。

全席自由 一般 1,000円 高校生以下 800円  
(未就学児は無料 ※ただし母子室は利用できません。)

芸術監督・指揮：  
嶋津武仁

指揮：  
高橋裕之

コンサートマスター：  
藤田 一  
ピアノ：  
藤田 一

L.v.ベートーヴェン  
「コリオラン」序曲 作品62

嶋津武仁  
指揮  
ふくしん夢の音楽堂  
「コリオラン」序曲 作品62

J.ブラームス  
セレナード 第1番 二長調 作品11  
(抜粋)

チケット取扱い

ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)、福島テルサ、  
とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)、

主催：オーケストラ・フィルジツヒ

後援：福島市、福島市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、  
ラジオ福島、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、  
テレビユー福島、ふくしまFM、福島コミュニティ放送FMポコ

協賛：株式会社パナナ

ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。  
感染症拡大状況により、プログラム変更や演奏会延期の場合があります。  
最新情報はウェブサイトでご確認いただくか、お問い合わせください。

お問い合わせ：

pfirsich@pfirsich.jp

ウェブサイト：

<https://pfirsich.jp/>



2021年2月11日に開催するオーケストラ・フィルジッヒ第16回演奏会は、これまでの当楽団の演奏会の流れを継承しつつ、今回は特に「未来へ向けたメッセージ」としてのコンサートを発信するものです。

震災から10年のちょうど1ヶ月前に行う演奏会であり、これまでの震災復興を祈念しつつも、未来に向けた福島の文化の発信の一つの形としてのコンサート活動と位置づけるものです。プログラムには、これまでフィルジッヒが何度も向かい合ってきたベートーヴェン作曲「コリオラン序曲」のほか、ベートーヴェンの音楽を引き継いだブラームスの「セレナード第1番」、更にこれまでの演奏会において取り組んできたクリエイティブな活動のあらたな試みとして、芸術監督である嶋津武仁作曲のピアノ協奏曲「未来へ向けたメッセージ」の初演を組み込んでいます。

今回も、第14回演奏会から始めた常任指揮者の高橋裕之と芸術監督の嶋津の2人の指揮により、世代の異なる音楽観が対峙して、1つのコンサートを形成する形を継承しています。また、過去2回嶋津が行ってきた後半プログラムを高橋が担当し、新たな「未来」への出発点となる演奏会になります。

## 芸術監督・指揮：嶋津武仁



1949年静岡県に生まれる。作曲を甲斐説宗、指揮を伊藤栄一らに師事。1977年ドイツへ留学。ベルリン芸術大学にて作曲をイサン・ユンに、指揮法および総譜奏法をD.ポルフに師事。多くの国内外の音楽祭で作品を演奏。2013年よりニューヨーク・フィルとの子供の創作教育プログラムで連携し、青少年のための作曲指導を通じた国際交流を行っている。作品のCDが日本をはじめ、

アメリカ、ドイツ、メキシコ、フランス、スイス各国で出版。ドイツのブライトコップ&ヘルテル社、F.ホフマイスター社等より楽譜出版。福島大学名誉教授。元福島大学附属中学校長。

## 指揮：高橋裕之



福島市出身。県立福島高校卒業。福島大学大学院音楽教育専修（作曲・指揮）修了。

これまでに嶋津武仁、故K・レーデル、井上宏一、本多優之（指揮法）の各氏に師事。また、国内・欧州においてマスタークラスを受講しディプロマを取得。スタラ・ザゴラ州立歌劇場、ルーマニア・ラジオ・シンフォニーオーケストラ、パザルジク交響楽団などに客演。

国内では、福島市制110周年記念事業

オペラ「乙和の椿」の上演では、『音楽の友』誌上で好評を受けた。また、各地のオペラプロダクション副指揮者を務めている。これまでにドレスデン音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・ジャポン、名古屋芸術大学コンサート等に出演するなど各地で精力的に活動をしている。



## ピアノ独奏：松山 元

ドイツ国立ケルン音楽大学大学院修了。同大学に於いて、ピアノ及びピアノ二重奏をアロイス・コンタルスキー教授に師事。室内楽をアマデウス弦楽四重奏団の各氏に師事。国内はもとより、ヨーロッパ各地、アメリカ、中国、韓国等で活発な演奏活動を展開。世界の著名国際音楽祭での招待演奏、国際ピアノコンクール審査員、国際ピアノ講習会講師等にも度々招聘されている。平成12年度文化庁派遣芸術家在外研修員、及びフンボルト大学客員研究員。又ベルリン芸術大学にて教鞭を執る。古典から現代までの幅広いレパートリーを持ち、ソロ・リサイタルをはじめ室内楽、CD録音、FM出演、オーケストラとの共演等、活動は多岐にわたる。とりわけこれまでに国内外の300を超える作品初演に携わり、パン・ミュージックフェスティバル（韓国）、アスペクテ・ザルツブルク国際現代音楽祭（オーストリア）に定期的に招かれる等、日本を代表する現代音楽奏者としても

大変高い評価を受けている。2004年、W.フックス（Cl.）、D.リニカー（Vc.）らとクラングフォルム・ベルリン（ベルリン・フィルメンバーによる室内楽奏団）を結成、その代表を務める他、近年は野平一郎氏とピアノ・デュオを組み、好評を博している。第28回中島健蔵音楽賞（2010）受賞。これまでにピアノを小林道夫、松浦豊明、外山準、タチアナ・ニコライエヴァの各氏に師事。

## Orchester Pfirsich オーケストラ・フィルジッヒ

オーケストラ・フィルジッヒは、福島県に縁のある器楽奏者を中心に2003年に創立された非常設のオーケストラです。諸事情により恒常的なオーケストラ活動が困難な人、音楽教室の講師、各地の市民オーケストラに所属している人などにより構成され、音楽を愛する人の新たな交流の場となっています。そして限られた練習回数の中で、より質の高い演奏を行うことを目標に活動しています。

芸術監督に作曲家で福島大学教授の嶋津武仁氏、常任指揮者に福島市出身で新進気鋭の高橋裕之氏を迎え、2004年2月に初の演奏会を開催。以来、バロックから現代まで、交響曲からオペラまで、様々な時代・ジャンルの曲に取り組んでいます。2014年2月の第10回演奏会ではベートーヴェンの「第九」を、福島市内の高校生を中心として編成された合唱団コア・フィルジッヒと共に、大きな喝采を博しました。

楽団名となっている“フィルジッヒ（Pfirsich）”＝桃は福島の名産品です。その花が美しく咲き、香りが風に乗って届くように、また、その果実の豊かな味わいが人を喜ばせるように、当楽団の存在が、音楽を愛する全ての人々にとって歓迎されるようにとの願いが込められています。

ご来場の  
皆さまへ  
お願い

- マスクの着用、手洗い、消毒液のご利用と「咳エチケット」にご協力ください。
- 咳、のどの痛み、だるさ、発熱などの体調不良を感じる場合には、ご来場をお控えください。
- チケット裏面にお名前・連絡先・当日の体温をご記入の上お持ちください。
- お客様同士の接近した距離での長時間の会話や、大声を出す行為はおやめください。
- 接触確認アプリ（COCOA）のインストールにご協力ください。